

とっせい・グローバルウォッチ

第87号 2014年2月5日発行

アンニョンハセヨ KOREALレポート 21 モバイルメッセージの進化

韓国内のモバイルメッセージ(※)の利用現況とモバイルメッセージを通じた多様な収益創出モデルを調べてみた。これらは、日本におけるモバイルメッセージに関する新しいサービスに役立つのではないだろうか。

※モバイルメッセージとは、スマートフォンをはじめとするモバイル端末を主な対象としてインスタントメッセージの機能を提供するサービスやアプリの総称である。

■韓国内モバイルメッセージの使用現況

スマートフォンの利用が一般化され、文字メッセージの利用が益々減少する一方、モバイルメッセージの利用が急増している。カカオトークのようなモバイルメッセージの利用が韓国内で大勢を占めている。人々は歩きながら常にスマートフォンでカカオトークの画面に何かを書き込んでおり、韓国人の生活に欠かせない存在となっている。韓国インターネット振興院の2013モバイルインターネット利用実態調査によると、スマートフォンの利用者の一日平均利用時間は約2時間であり、主な利用サービスは、チャット及びメッセージが81.2%で、最も高かった。現在、韓国内で最も多く利用されているメッセージはカカオトークで、韓国内スマートフォンの利用者の実に96.5%と独占的な地位を占め、次にLINE(ライン)、NATEON(ネイトオン)と続く。モバイルメッセージは、スマートフォンの普及により無料通話及びグループ対話等の利用者間のコミュニケーションの基本機能によって多くの加入者を確保したが、最近、サービスの範囲を更に拡張している。

■モバイルメッセージと収益創出モデル

モバイルメッセージは単純なメッセージだけでなく、広告、ゲーム、コンテンツの提供及びショッピング等のサービスも提供している。まず、広告の側面にカカオトークの「プラス友達」機能を目にすることがある。これは、広告主とメッセージが友達登録をすることによって広告のターゲット層を具体的に絞ることができ、利用者自らが選択した対象という点で広告に対する嫌悪感を減らすことができるという広告の新しい形態である。

次に、メッセージに連携されたソーシャルゲームがある。メッセージを通じてゲームの紹介をするよう誘導することで、広報効果だけではなく、友達との順位競争が自然にできるようになっている。この機能によって利用者数は急速に増えて、今は多様な年齢層が楽しんでいる。

これ以外に、カカオページ、LINE(ライン)漫画等のサービスは自社開発コンテンツだけでなく、外部コンテンツの流通を通じた収益創出のケースも出てきている。最近、LINE(ライン)は「ラインモール」サービスを開始し電子商取引市場にも変化を起こすのではないかと予想されている。

日本で新たにモバイルメッセージに関するサービスを立ち上げる際、韓国のモバイルメッセージを例にしてみたいかがだろうか。



出所:韓国日報

【安進会計法人 キム・ミョンギョ】

目次:

アンニョンハセヨ KOREALレポート 21	1
東南アジアビューロー レポート 2	2~3
最新の上海 ~現地レポート~ 71	4
ロシアレポート 8	5
現地発! 台湾月刊レポート 80	6~7
編集後記	7

東南アジアビューロー レポート 2

どうなる!?大丈夫か、タイ

※本レポートは執筆時点（2014/2/4）の内容です。
あらかじめご了承ください。

日本のテレビでも連日報道されているタイの情勢だが、益々予断を許さない状態だ。昨年末からは、反タクシン派によるデモ行動は一時膠着状態が続いたが、ついに1月13日「バンコク都心を封鎖」という動きに出た。計画されたかのように、前日深夜遅くから、主要道路に道を覆いかぶさるような屋根付きの施設が立てられ、翌朝を迎えると、そこには人が座り込み、一般車が通れない状況だ。基本的な考えとして、都市機能をマヒさせるのが目的で、官公庁など政府機関施設を集中的に包囲し、反タクシン派が不利と言われている総選挙の中止及びインラック首相はじめ閣僚全員の辞任を求め、目的を達成するまで封鎖を続けると宣言し、我慢大会の様である。

■バンコク市内の様子

ただでさえ渋滞の多いバンコク市内だが、計算されたかの様に重要箇所を占領されてしまうと、車の移動は不便だ。ただ、バンコク封鎖といっても、すべての道が封鎖されているわけでもない。車で移動するとなると、頼りになる情報をもとに、わき道を抜けるなどして、移動しなければならない。ただ、地元新聞にも出ていたが、一般の人々が車で外出を控えているせいもあり、バンコク市内の空気が一時的にきれいになったとか。

デモに参加している人も、変化しつつある。基本的なベースとしては、タイ南部の農家の人が日給を支払われ動員されている様子だ。無料で配布されているデモ隊への食事を見ても、タイ南部の人が好む

マレー系の料理が出されている事が多い。座り込んでいるデモ隊が飽きないようにとの配慮か、特設舞台上では常にイベントが開かれている。西洋系のテンポの良い音楽コンサートが開催され、聞いているといきなり勇ましい音楽が流れ出す。そのままの勢いで、英雄気取りで街を練り歩かれるので、陽気なタイ人が大勢集まりムードに乗ってしまえば大変だ。思わず、デモかお祭りかと疑いたくなる。

このデモの特徴は、オフィス街のど真ん中でデモ隊の座り込みが行われており、昼休みや、会社退社後に一般のサラリーマンやOLなどがデモに参加（楽しんでいる様子?）、特に夕方から深夜にかけて、演説やコンサートで盛り上がる。

日本人として不思議に思うのは、道路で封鎖を指揮しているのは、反タクシン派の一般人で、道路を通ろうと思うとそれに従わなければならない。こちらでも渋滞や、道路を勝手に封鎖し迷惑を被っているのだが、横柄な態度で指示され、尚且つそれに従わなければならないというのは理解に苦しむ。

警察や軍隊も今のところ表に出ず、静観している様子で、急いでいる際は、歯がゆくてたまらない。日本では当たり前のことで、困った時は警察が頼りになるのだが、今こちらでは事件が起こらない限り、動いてくれそうもないので、より不安度が増す。タイ人に聞いても、このデモの見解が分かれ始めてきた、国力を落とす無駄な争いを一日も早く収束させた方がいいという人、現政府を倒すまでこの戦いは辞めないという人もいて、温度差を感じる。タイ人の中にも無関心派としてあきれている人も出てき始めた。



左:シーロム交差点で行われる反タクシン派によるチェック
中央:フリーマーケット化するシーロム交差点
右:無事に行われた選挙投票所(DUSIT地区)

ASEANという今後発展が見込まれる中心に位置するタイ国。様々な利権争いから発したこのデモの終着点が見えなくなってきたのが、一番の難題だ。つまりデモが長引くに連れて、状況が複雑化してきた。分かりやすいタクシン派VS反タクシン派の争いから、デモの長期化による経済の落ち込みが現実的になり、もうそろそろ考える人も目立ち、何をもって解決なのかゴールが全く分からない。

■各方面に出始めているデモの影響

タイでは12月から2月までは乾季で雨が降らない。外に出ても気持ちが良い。タイ人の中には、時間に余裕があるので楽しそうなデモに参加する人も多くいるようだ。ただ、どう考えても、デモ周辺のガラガラのショッピングセンターや、夜真っ暗なホテルを見ると、観光産業がかなりの収入を占めるこのタイで、このままでよいはずがなく、新聞の見出しにもこのやり方が本当に正しいのかと皮肉めいた見出しも出ている。

あまりにも急激な経済発展と、従来からの特権階級社会優遇の社会システムにより格差が生まれ、そこにまた近隣諸国の経済発展、その諸国の需要を取り入れながら成長が見込まれる絶好の好位置にタイ国があることから、莫大なインフラ整備事業が計画されており、その利権争いや、思想などが絡み合い複雑怪奇な現象が起きている。

日系企業に限っては、ただこのような事態でも、撤退という言葉はまだ耳にしない。今のところタイから離れるということは現実的に難しく、せいぜい本拠地をタイに置いたまま、近隣諸国にサブとしての役割を移す程度だ。タイから撤退するということは、ASEAN地区約6億人のビッグマーケットの中心地を逃すことになり、日系企業は今のところ黙って見ているだけだ。一日も早く、この騒乱が解決し、ASEAN地区のリーダー的存在であるタイ国に戻ってほしいと見守っている。

1月23日には、「首都バンコク全域に非常事態を宣言する」と発表があった。適用は60日間で、これにより治安部隊が武器を携行して治安維持活動にあたるのが可能になる。バンコクはこれとって、

変化はみられない。政府としてはこの宣言により、合法的にデモ隊を排除して、2月2日の選挙を安全に迎えようとしたが、デモ隊を囲むように軍隊が配置されている程度で変化は見られず、政府の思惑は空回りとなってしまったようだ。いよいよ2日の選挙日を迎え、これまでのデモ隊の行動から、立候補者すら出ていない地域もあり、ある意味どこまでこの選挙結果が受け入れられるか、全く不明だ。厳重態勢の中の投票で、警察や軍隊約14万人が動員された。複数の投票所でデモ隊による妨害、区役所が封鎖、投票用紙が送れない状況も見られ、投票場が開かれない地区も多く出た。被害にあった投票場は、後日投票日を設けて、再投票する予定だ。こちらのテレビでは、連日選挙会場での銃撃戦のビデオが流れており、選挙会場で銃撃戦？なぜ選挙で戦わない？などの素朴な疑問だらけだ。

選挙終了後の2月3日も、デモの規模は縮小するものの、引き続き行われている。反タクシン派が選挙をボイコットしているので、与党のタクシン派の勝利は確実だが、選挙結果が果たして受け入れられるのか、選挙という節目を終えたが、何も変わらないこの現状はどうなるのであろうか。

■タイの華人による旧正月

最後に、三回あるといわれるタイの正月で、タイの華人による正月、春節祭が1月31日に行われた。タイには約10%の華人が住むと言われ、現在3世、4世の方が多く住んでいる。言語、思想等は完全にタイに同化しており、先祖から伝わる中国の風習のみが継承されている状態だ。バンコクの主なデパートは、赤い提灯が掲げられ、特に華人が多く住むヤワラー地区などは爆竹や花火での派手なお祝い、獅子舞が練り歩かれた。例年だともっと多くの観光客、地元の人々によってお祝いされるのだが、ヤワラー地区も連日デモ隊が練り歩くせいか、控えめに行われたようだ。

タイには観光的にも、ビジネス的にも非常に魅力があり、とてもいい国と思う。早く落ち着きを取り戻し、国民みんなが微笑むような国になることを期待する。



春節祭(ヤワラー)



デモ隊横デパート(アソーク)春節祭で賑わう



社長からお年玉をいただく！
(華僑系企業ではよく見られる)

最新の上海 ～現地レポート～ 71

上海自由貿易試験区

昨年10月から実施されている上海自由貿易試験区（以下、試験区と略記）について、本誌83号（昨年10月8日発行）でご紹介したが、まだ開始間もなくの頃で、実務上、不明な点や憶測も多かった。例えば、試行前の段階で、試験区内に企業所得税の減免措置などの優遇税制が設けられるのでは、との報道もあったが、試験区は上海への企業誘致ではなく、投資・サービス分野での対外的開放に重点を置いていることから、企業所得税の減免措置なしとなった。そこで今回は、試験区の注目ポイントを改めてご紹介する。

■行政手続面での規制緩和

①ネガティブリスト

従来、外資企業の設立には、書簡部門への申請と審査を経て、認可が必要とされていたが、今後は試験区内で外資企業を設立する場合、ネガティブリスト（中国語名：負面清單）に記載されていない投資項目が、認可制から届出制に変更。

※ネガティブリスト：外資参入規制分野のリスト
<http://www.shanghai.gov.cn/shanghai/node2314/node2319/node12344/u26ai37036.html>

②主管部門の連携によるワンストップ窓口の開設

各種申請手続において、工商局・質量技術監督局・税務局など申請者である企業が規定の順序に

従って申請する必要がなくなり、「ワンストップ窓口」へ一度の申請受理で済むようになり、申請にかかる期間も大幅に短縮されている。

■投資環境面での規制緩和

①サービス業の開放

「中国(上海)自由貿易試験区総体法案」(http://www.gov.cn/zwgk/2013-09/27/content_2496147.htm)より、下の図表に記載の6分野18業種のサービス業の開放拡大を発表。

■試験区への企業進出状況

ちなみに、外高橋保税區への企業誘致やコンサルティングを行う上海外聯発商務諮詢有限公司によると、開始から約4ヶ月が経過した現時点（今年1月末時点）で、内資企業を中心に約2000社が新規設立したようだ。日系企業による試験区内への新規進出が少ないように思えるが、試験区に指定されているエリアの一つである外高橋保税區には、もともと約8000社の日系企業が登記している。10月1日以前に試験区に指定されているエリアに登記済みの企業は、経営範囲や住所の変更がない限り、特別な変更手続きなく、自動的に試験区内企業とみなされている。ただし、今回外資企業への規制緩和が発表された6分野18業種の領域で、今後、ビジネス展開をしていく場合は、経営範囲の拡大変更手続が必要となる可能性があるため注意が必要である。

分野	業種	規制緩和措置のポイント
金融サービス	銀行業	民間資本と外資金融機関による中外合弁銀行の設立 内資銀行によるオフショア業務の展開
	健康医療保険	外資による健康医療専門保険会社の設立
	ファイナンスリース	主要業務と関連する商業ファクタリング業務の兼業
運輸サービス	遠洋貨物運輸	中外合弁・合作の外資持分比率制限の緩和
	国際船舶管理	外資独資の国際船舶管理会社設立
商業貿易サービス	電信付加価値	外資による一部の電信付加価値サービスの経営（アプリストア、コールセンター、BtoCサイトなど）
	ゲーム機の生産販売	外資による生産販売
専門サービス	弁護士業	中国法律事務所と外国法律事務所の業務協力緊密化
	信用調査	外資による信用調査会社の設立
	旅行	中外合弁旅行社による出国旅行業務の展開（台湾を除く）
	人材仲介	中外合弁の人材仲介会社設立（外国資本70%以下） 外資人材仲介会社の最低資本金引き下げ
	投資管理	外資による株式制投資性会社の設立
	工程設計	上海市にサービス提供する外資工程設計会社に対する業績要求の撤廃
	建築	外資建築会社が上海市の中外連合建設プロジェクトを請け負う際の建設プロジェクトの中外投資比率制限の撤廃
文化サービス	PRマネジメント	外資独資によるPRマネジメント会社の設立
	娯楽施設	外資独資による娯楽施設の設立
社会サービス	教育研修・職業技能研修	中外合作機構の開設
	医療	外資独資による医療機構の設立

ロシアレポート 8 ソチオリンピック聖火リレーと日本

2月7日にソチオリンピックがいよいよ開催される。ロシアで開催される初の冬季オリンピックということもあり国民の関心は非常に高い。ロシアでは伝統的に冬のスポーツに人気があり、オリンピックも夏季よりも冬季の方が注目される。今回も、ある人はソチ市へ大会を観戦に行くだろうし、またある人はテレビで大会を見て毎晩家で歓声か悲鳴をあげるだろう。ロシアのファンは非常に情熱的なのだ。

また、見るだけでなく自分も大会に参加したいと考える積極的な人は大会のボランティアに応募する。ロシア国内で約2万5千名がボランティアとして登録され、遠く離れた沿海地方からでも200名のボランティアが大会に参加する。

また、今回のオリンピックでは、聖火リレーが国民の関心を集めた。冬季大会の歴史の中では一番大規模なものとなった聖火リレーは、昨年10月7日にモスクワ市からスタートし、オリンピック開会日の2月7日にソチ市に到着する予定だ。

聖火リレーは123日間にも及び、車、列車、飛行機はもちろん、トナカイや犬のソリで6万5千キロ以上もロシア国内を運ばれた。世界で最も深い湖であるバイカル湖の湖底やヨーロッパ大陸で最も高い山であるエルブルス山の山頂を経由したことも話題になった。

聖火リレーでもう一つ話題になったのが、聖火ランナーに日本人が参加したことだ。参加したのはロシア在住の白浜千寿子さん（45歳）。ウラジオストク市での聖火リレーに参加した白浜さんは、20年以上ロシアで仕事をしており1998年から2001年まではウラジオストク市日本センターに勤務していたという。

オリンピックの開会式では、日本人宇宙飛行士の若田光一さんが乗った宇宙船ソユーズで宇宙に運ばれたトーチを使って聖火台に点火される予定と聞いた。聖火リレーに白浜さんが参加したことをはじめ、今回のオリンピックが日露両国の友好の象徴になったらと願う。



ソチオリンピックのボランティア
(写真: プリマメディア通信)



トーチに聖火をともす
ミクルシェフスキー沿海地方知事
(写真: プリマメディア通信)

【鳥取県ウラジオストクビジネスサポートセンター ユルキナ・ヴィオレッタ】

現地発！台湾月刊レポート 80 台湾の旧正月文化について

新年快樂！馬到成功！！今年の台湾の春節（旧正月）は、1月31日であった。今回は、友人宅に大晦日に招かれたので、台湾正月、ハレ文化における食文化を紹介する。

■台湾の縁起物

今年の台湾は、1月に入ってからとても寒い日が続く、台湾最高峰玉山はもちろん、阿里山にまで雪が降った。しかし月末の春節に向かうとともに寒さが和らぎ、旧正月当日は、25度にもなった。とても穏やかな春節となった。今年は、午年。「馬到成功」が、合言葉である。意味は「すぐに成功するぞ」。馬が来ると戦いに勝つという故事に基づく。とてもよい縁起の言葉である。台湾では、大晦日に父系を基にして一族が集まる。私も友人の家におじゃましたので、台湾の正月食文化を中心に紹介したい。家に到着すると正月らしい飾りであふれている。まず、春聯だ。赤い紙におめでたい様々な言葉が書いてある。「恭喜發財」「恭賀新喜」等々。そして橙（だいたい）が飾ってある。橙は、日本のものと違い小ぶりだ。日本の金柑より一回り小さい。色が金色であり、発音が吉祥と同じで縁起が良い果物。これを盆栽や、山盛りにして飾ってある。服も下着も新しいモノに着替える。パンツ、ブラジャーは、真っ赤な下着。私の家の周りにも大量に売っているところを見ると、皆さん本当に付けているのだろう。ただし弊社の女性に聞いてみたら、若い人は最近ではあまり着ないらしい。オジサン、オバサンの文化になりつつあるらしい。



上：春聯
下：橙（だいたい）

■台湾らしいお正月の食事

さて、夕方になり、おつまみを食べ始めた。一番は、カラスミである。台湾の天然物を頂いたのだが、養殖物と違いまったく臭みがない。そして濃厚な味で、ニンニクの茎（ネギでもOK）と大根とともに挟んで頂く。そして滷味（ルーウェイと読む）と言われる鶏の内臓各部、爪脚と一緒に固

い豆腐を甘辛く煮たものを食べる。鶏の爪脚をパクパクと器用に食べる。私にとっては、正直、不気味で苦手である。日本では、大晦日に蕎麦を食べる質素であるが、台湾では、大晦日に日本でいうところのお節料理を頂く。これは豪華であり、且ついろいろな意味を持つ。今回、頂いた料理を紹介していこう。まずメインが、日本人にもご存知の「佛跳牆（日本名：ぶっとびなべ）」だ。豪華「乾物」がこれでもか、と入っているスープだ。内容は、フカヒレ（香港では残酷ということでも食・輸入禁止となったが、台湾では、いまだ高級食材として食べる）、肉厚の椎茸（鳥取産はとでも適合すると思う）、鶏がまるごと一匹、筍（日本のものと違い小さく細い）、アワビ、ホタテ、金華ハム、ナマコ、芋等である。スープは、薄い色をしており、花のようなとても良い香りがする。味は、わりと淡泊であるが、その中には、素材の様々な味が溶けこんでおり、複雑なハーモニーを醸し出す。文句なしに美味しい。今回頂いたものは、一壺、13,000台湾ドル。日本円で、約45,000円。味も豪華なら、値段も超豪華だ。ただし、これで10人分あるので、年一回の贅沢ならいいかな…とってしまう。次に伝統的な食材について説明する。まず、切らないままの長いホウレン草をゆでて食べる。「長長久久」の意味で「長



上：フカヒレの入った佛跳牆（ぶっとびなべ）
下：大根餅（左）と豪華料理の数々

《次頁に続く…》

年菜」と言い、切らないで食べる。そして魚。「年年有余(魚)」と言い、「余」と「魚」が同じ発音であることから、だんだんと余裕ができる、お金がたまる、という意味になる。春節には、中国大陸北方において水餃子を食べることが有名。同様に台湾でも戦後來た外省人は、餃子を食べることが多い。しかし、本省人(戦前から住む台湾人)は、大根餅を食べる事が多い。大根餅も、バリエーションがあり三種類の味があった。モチモチして美味しかった。お酒も頂くのだが、赤ワインがメインである。その後は、ウイスキーとなった。そして、良い気分になったところで、おまにかねのお年玉、台湾では紅包というのが配られる。独身の子供たちに配られる。日本と違うのは、お爺さん、お婆さんにも配ること。皆、大喜びだ。夜の12時になると、全員が集まり、日本で言う仏壇のような場所にて先祖へのお祈りを開始する。家にはない人は、近所の廟(寺)に行く。そして先祖を敬う言葉を発し、線香をたて祈る。終了すると、花火だ。邪気を追い払う。このようにして、新年を迎えた。



花火で新年を迎える人々

■台湾にもある福袋

さて、年が開けると日本の文化である「福袋」が、ここ台湾でも盛んになってきた。今年の内容

を見てみよう。まず最大手、太平洋SOGO百貨店。一番人気のラッキー福袋。用意されるのは、2500袋。値段は、500円から3000円(約1万日本円)ほど。今年の最高ラッキー賞は、TOYOTAの65万円(230万日本円)の車が当たる券が入っている。新光三越百貨店の一等賞は、68万円の1カラットダイヤモンド。大遠百貨店では、車。他の百貨店もだいたい一等賞は、自動車であった。日本では、車が一等賞になることは減ったと思うが、いかがでしょうか。正月二日目になると、奥さんの家に挨拶に行く。これを「初二の回娘家」という。皆が皆、奥さんの家に行くものだから、道路が大変に混雑する風習だ。こうして、おつまみを食べ、賭け麻雀、賭けトランプをしてダラダラと過ごすのが台湾の正月である。

■閑話休題

さて、話は変わるが、先日、新規開店の焼肉店が移民局により手入れを受けた。私は、以前この店長に、たくさん日本人がいるけど大丈夫?仕事ビザを取得しないと危ないよ、と忠告した。しかし、コミュニケーションが取りやすいこと、安い賃金で雇えること、人手が足りないことから、安易な方向に走ったらしい。噂では、罰金70万円(250万日本円)、雇われた本人は強制帰国の罰を食らったらしい。ここ台湾は、日本ではありません。外国です。現地の法律、文化を尊重しないと痛い目にあいます。

今年も、あらためまして、よろしくおねがいします。

【スナーク 富田 恭敏】

編集後記

アニメ「巨人の星」がインドで日印合作リメイクされ、テレビ放映されているという。舞台は日本からインドへ、スポーツは野球から現地で人気のクリケットへ変更するなど、インドの人にとって馴染みのある内容へローカライズされている。そして、要所要所に日本ブランドのロゴが出てくる。調べてみたところ、このインド版巨人の星は、安倍政権がマンガやアニメ、食、ファッションなど日本文化を海外に売り込むために力を入れている「クール・ジャパン戦略」の目玉の一つに位置付けられているとのこと。

現地の人の反応はどうだったのだろうか?インドのニューデリーに住んでいる日本人の友人にたずねてみた。すると、以前、彼女が現地で日本語教師をしていた時、インド版巨人の星について生徒に聞いたことがあったそうだが、反応はイマイチだったとのこと。それよりも、ドラえもんやクレヨンしんちゃんの方が面白いと話していたようだ。また、日本ブランドについては品質が良いことは知られているが、韓国ブランドを選ぶ人が圧倒的に多いようだ。特にサムスン人気は異常なほど高まっていると言う。

高品質・高付加価値の「MADE IN JAPAN」は世界に誇れるブランドである。勢いのある韓国ブランドに負けない躍進を期待したい。



公益財団法人 鳥取県産業振興機構
とっとり国際ビジネスセンター

住所 境港市竹内団地255-3

Tel 0859-30-3161

Fax 0859-30-3162

Email kaigai@toriton.or.jp

URL <http://www.tottori-kaigai.com/>

本誌「とっとり・グローバルウォッチ」は、皆様から内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしておりますのでお気軽にお寄せください。